

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②事業者情報

名称：	国立障害者 リハビリテーションセンター	種別：	自立訓練（機能訓練）
代表者氏名：	芳賀 信彦	定員(利用人数)：	90 名
所在地：	〒 359-8555 埼玉県所沢市並木4-1	TEL	04-2995-3100

③評価実施期間

令和5年6月19日（契約日）～令和6年1月25日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

○「期待する職員像」を基に積極的な職員育成・人材育成に取り組んでいる

「期待する職員像」を明確に示し、また自立支援局職員研修計画の中で、職員研修の3本柱（職場研修（OJT）、職場外研修、自己啓発）を明確にして職員研修の基本方針や研修内容を示して実施している。2023（R5）職員研修計画一覧には、研修名・種類・開催時期・受講者氏名など諸項目を載せ職員一人ひとりの研修受講予定などを明確にしている。若手職員（新規採用職員含む）や女性職員のキャリアアップなど、可能な限り職員全員が研修に参加できるよう計画している。さらに現在、事業所では「リハビリテーションに関する専門職の人材育成」と題し、高度専門職業人、教育者、研究者など専門職の指導者育成を目的とした教育の在り方について新たな検討を図っている。事業所は国立施設として、充実した内容・計画の下、積極的な職員育成および人材育成に取り組んでいる。

○訓練終了後の生活を視野に入れ利用者の自立に向けた支援に努めている

センターでは利用者の訓練終了後の生活を視野に入れているため、利用者が自身でできることは行い、介助が必要なことは自身で依頼するなど、利用者の自立に向けた支援を方針としており、職員間で共有化を図っている。排泄や入浴なども利用者一人ひとりの障がいに合わせた環境整備を行うことにより、自立に向けた訓練や支援を行っている。訓練終了後も自宅で利用者が自立できるような環境整備の支援も行い、利用者の意向があれば元々の就労で必要だったパソコン操作や自動車運転の訓練などを行って、訓練終了後の利用者の自立生活に向けた支援に努めている。

◇特にコメントを要する点

○社会資源として地域との関わり方への配慮も期待したい

自立支援局として地域との関わり方の重要性を謳い、リハ並木祭や施設見学説明会、各種講習会の開催など、地域の福祉事業所を招いてのイベントの開催や情報公開の機会を設け、地域に対し情報を発信している。また、地域住民や障がい者団体へ体育館など施設利用も一部認めたり、近隣学校の福祉学習に講義対応を行っている。さらに、地域で不足する障がい者の自動車運転支援について、独自事業による自動車運転評価や運転習熟訓練を提供し、地域の医療機関などと連携を図っており地域貢献・公益事業に取り組んでいる。一方で、今般の利用者アンケートには「外部の人は体育館を利用できないので、リハビリを終えた後も使えたらよい」「すごく良い施設なので、少しでも空きがあるなら間口を広げるなどして訓練希望者を受け入れ入れてはどうかと思う」などの声も上がっており、国立施設ならではの建物、設備、福祉用品の貸出など地域への還元、利用者のニーズ・声への対応など、感染症対策等も踏まえて一層の地域との関わり方のあり方を一考されることも期待したい。

○各種マニュアルの定期的な見直しや改定への体制作りも願いたい

センターでの各種のマニュアルは各部門ごとで整備されており、訓練標準期間などは、大分県の別府重度障害者センターの理学療法士や作業療法士などと検討し合同で整備している。各種マニュアルは新入職員入職時のOJT研修、内部研修などでの活用の際や各部門で使用している際に内容が古くなっていたり、現状に合っていないことがあれば見直しを行い必要に応じて改訂を行っている。ただし、見直しが都度となっているため、センターとしては各種マニュアルの定期的な見直し時期を設けることを課題として挙げている。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の評価を通して、機能訓練（肢体）全体としての日頃の取り組みや体制等を見直す機会となり、とても有意義な経験となりました。コメントをいただいた「社会資源としての地域との関わり方」や「各種マニュアルの定期的な見直し（見直し時期の設定）」（B評価の件含む）については、今一度、不十分な点を検証しつつ、必要な見直し等を行い、関係部署とも連携をしながら、より一層のサービス向上に努めてまいります。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり